

臨時軍事費
追加豫算案

五十二億七千万圓

政府臨時閣議で決定

物資動員計畫意見開陳

(東京二日) 昭和十四年二月以降一ヶ年間の支那事務費を貯ふべく臨時軍事費追加豫算案は一昨夜左の如く合計五十二億七千万円、別に豫算外國庫の負擔となるべき契約をなすを要する件七億円と内定を見るに至つたので政府は二日臨時閣議を開きまつて臨時軍事費豫算予算は閣議決定上三千四百万圓、海軍關稅八千一百萬圓、陸軍關稅一億四千五百圓、海軍關稅六億五千円、十四年度追加予算案六億七千万円、内閣軍關稅四億九千万圓、海軍關稅一億七千万円、合計五十二億七千万円。

(東京二日) 二日の臨時閣議は午前九時十分より院内に開會、既報の昭和十四年度臨時軍事費を議題として石渡藏相より詳細なる説明を行ひ、これに關聯して奇木企劃院總裁より十四年度の物資動員計畫につきその概要を説明各閣僚から物動計畫の進行に遺憾なきを期するやう種々意見の開陳があつて異議なくこれを可決した。木戸内相より大阪牧方火薬庫爆破事件につき報告、同十時半散會した。

農林・漁業生産増進案

二日衆議本會議で上提決議

(東京二日) 二日の衆議院本議場に於ける火薬庫の爆破事件に關し詳細報告なし、議長は牧方火薬庫の爆破事件を求めて牧方ともに議長者に對し深甚の作用を表し更に今回の権事は作業の遂行上何らの支障なき旨を表明、終つて日程に入り

火薬庫の爆破事件に關し詳細報告なし、議長は牧方火薬庫の爆破事件を求めて牧方ともに議長者に對し深甚の作用を表し更に今回の権事は作業の遂行上何らの支障なき旨を表明、終つて日程に入り

方陸軍火薬庫

突如爆發死傷一百

(東京二日) 大阪府、午後三時十分頃大阪陸軍火薬庫が突如爆發し火は附近民のものではないに、然し生産高は更に一層農林・漁業の生産増進に努力すべきである。

我が農林・漁業は時局下においても立派に生産力をも失した。

提理由説明のため高橋熊次郎氏外八十三名提出を上掲

火薬庫の爆發事件を求めて牧方

安陸に向か猛進

漢水敵陣に巨彈の雨

(東京二日) 宮内省發表、皇后陛下には今日午後四時三十五分自出度くも御安産遊ばされ内親王殿下御誕生あらせられた。畏くも御母子御承はる

御經過いとも御順調

「東京二日」來る四月から開設される名古屋帝國大劇場には帝國學士院會員工事博士益澤元治氏が就任するに決定した。

名古屋帝大總長
瀧澤博士に決定

竹の園生の彌榮
内親王殿下御降誕

カルネ
エリオ・リバロ原作
富岡耕村畫

(十一)

御經過いとも御順調

(東京二日) 宮内省發表、皇后陛下には今日午後四時三十五分自出度くも御安産遊ばされ内親王殿下御誕生あらせられた。畏くも御母子御承はる

御經過いとも御順調

「東京二日」來る四月から開設される名古屋帝國大劇場には帝國學士院會員工事博士益澤元治氏が就任するに決定した。

安陸に向か猛進

「東京二日」一日午後京山西方家に於ける敵陣の攻撃はすでに續々敗走中である。

（漢口二日）一日午後京山西方家に於ける敵陣の攻撃はすでに續々敗走中である。

（漢口二日）一日午前十一時

（シングガボーラー）日本伊浦

支を訪問、歐洲經由歸國の途

リ、武裝ゲ・ペ・ウを派遣

漁業権益阻害を企圖

板垣陸相我が決意を宣明す

(東京一月十日) 看ソ帝國東郷總督大使とソ聯外務人民委員リビノフ間の漁業條約交渉は既報のことと停頓状態にあるが、政府は一日開會において漁業権益を確保すべき旨聲明した、なほ板垣陸相は

ソ聯は目下北沿海の一大軍團を派遣し沿岸州における我が艦隊をあくまで阻害せんとするのでソ聯の侵略行為に對しこれが對策に万全を期してゐる旨のべたが秘密會議においては現地の實情に關し詳細に説明するところあつた

(東京一月十日) 看ソ帝國東郷總督大使とソ聯外務人民委員リビノフ間の漁業條約交渉は既報のことと停頓状態にあるが、政府は一日開會において漁業権益を確保すべき旨聲明した、なほ板垣陸相は

ソ聯は目下北沿海の一大軍團を派遣し沿岸州における我が艦隊をあくまで阻害せんとするのでソ聯の侵略行為に對しこれが對策に万全を期してゐる旨のべたが秘密會議においては現地の實情に關し詳細に説明するところあつた

在

映畫は國際文化振興會製作の「日本」の作として漢口を手始めに南京へ

方を依頼して來てゐるが、こ

れに對して外務省情報部小川

書記官は日本映畫の大陸進出

の日記「怒濤」で「其他隣海

は松竹、東寶、日活のうち

圖等の最も特別室は非常に氣

なるつてゐる

ア細亞の娘「吾示紅」(羅は)

入つたらしく御座底の黒の

馬の描寫に對しては

「實に美事だ」

それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

せよとすると

その移住地人の血と同化混

しても危険率は感くなる本

事である。それは日本國が感

すにねばなる程危險性を増

すとの感歎の聲を放つた

伯國にさつ

て一番危険な

本務民を伯人

</div

Notícias de S. Paulo

Primer Diário Nipponico
Publicado no BrasilDARIO P. ALMEIDA
DIRECTOR
ROCO KOWYAMA
PROPRIETARIOCaixa Postal, 2765
Telephone 2-5655
Rua Assembléa No. 54
SÃO PAULO-BRASILASSIGNATURAS
Anno - - - 60.000
Santos - - - 30.000
Número do dia - - 500
Exterior, anno - 120.000放牧場に日陰樹として樹木を
植える事は原の衛生上より必
要で、之が爲めには周年を通して
適當に日陰を與へ得る樹
木の樹高に就ても充分考慮す
べきである。即ち樹木の低さ豚・放牧場のやり方 (完)
二 絶對失敗せぬ二
二 牧場設備とその費用植える事は原の衛生上より必
要で、之が爲めには周年を通して
適當に日陰を與へ得る樹
木の樹高に就ても充分考慮す
べきである。即ち樹木の低さ

も譲らぬ要りものである。

樹名は「Pachellina」と呼ばれる常綠の大喬木で日本ではなつてゐる。又はからなつて
粉白を裝ふ葉は線狀披針形で先端尖り互に相間長さ一八乃至四十センチメートルに達する。花は單性で雌雄異株に生じ、花は円錐花房に雄花は穂狀花序に排列する。果實は核果形でなつての果實と同様で大で漿果である。用
途は果實嫩芽を食用に供し莢から出る汁で砂糖と酒を醸す。幹は建築材に供し莢はカズを編むに用ひる。原産地はアフリカ北部とアジア南部である。

聖州に一九二八年始め三百本の苗を輸入して同年八月種付けてみたがその半數

は氣候不順のために枯死して残り半數が現在生育し立派に結實してゐる。

次點を除かんがために成樹

までの比較高さの立派な木

は四十五センチ位の大きさにせ

千四百七十二米ダル有林鐵線

この表で示した通り聖州生産
の全取扱い數量の九割以上
は二八ミリメートルの長さを
有し大部分は長纖維のもので
ある。次に棉花等各級別價格の相違によつて
みれば級付九等級別は五級品

一級品(極上品)三級品七級

等級品五級品標準品七級

等級品九級品(下等品)

と大體分類できる。

各級別價格の相違によつて
みれば